

船舶事故調査報告書

平成29年9月21日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	不明（平成29年5月4日 11時00分ごろ～14時00分ごろの間）
発生場所	不明（山口県萩市須佐港内）
事故の概要	プレジャーボートSIZUKAは、機関室に浸水した。
事故調査の経過	平成29年5月8日、主管調査官（門司事務所）を指名原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート SIZUKA、5トン未満（長さ7.19m）
船舶番号、船舶所有者等	290-31136山口、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	沈没（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東北東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、家族8人を乗せ、平成29年5月4日11時00分ごろ須佐港内にある萩市狩又の係留地を出航し、同港内で航行又は漂泊して魚釣りをしていた。</p> <p>本船は、漂泊して釣りを行った後、場所を移動しようとして13時40分ごろ機関を始動したところ、2機ある主機のうち左舷機の警報が表示されたが、船長は警報の意味が分からず、不安になったので右舷機のみで係留地に向けて帰航を始めた。</p> <p>本船は、陸岸に近いところまで航行し、船長が、14時00分ごろ機関室を見たところ、機関室の7割ほどの高さまで浸水していることを認めた。</p> <p>船長は、どこから浸水しているか確認できず、このままでは沈没すると判断し、右舷機を停止して、乗船者全員と共に付近の陸岸まで泳ぎ、上陸した。</p> <p>本船は、風浪により圧流されて浅瀬に乗り揚げた後、潮が満ちて船尾から沈没した。</p> <p>船長は、発航前点検を行った際、機関室の浸水がないことを確認していた。</p> <p>船長は、航行中に思ったほど速力が出ていないと感じていたが、乗船者の重量の影響によるものと思った。</p> <p>乗船者全員は、出航時から救命胴衣を着用していた。</p> <p>整備業者は、後日、本船を陸揚げして解体する際、‘機関室内の主機冷却海水取入口と冷却海水ホースとの接続部のホースバンド’（以</p>

	<p>下「本件ホースバンド」という。)が外れている状況を確認した。</p> <p>整備業者は、本船が航行中に海中を浮遊していたゴミなどによって主機冷却海水取入口が塞がれ、冷却海水ポンプの吸引圧力によって冷却海水ホースが変形し、本件ホースバンドが外れたものと思った。</p>
分析	<p>本船は、本件ホースバンドが外れたことから、主機冷却海水取入口と冷却海水ホースとの接続部から海水が流入し、機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>本件ホースバンドは、海中を浮遊していたゴミなどにより船底の主機冷却海水取入口が塞がれたことから、冷却海水ポンプの吸引圧力によって冷却海水ホースが変形し、同取入口から外れた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、本件ホースバンドが外れたため、主機冷却海水取入口と冷却海水ホースとの接続部から海水が流入し、機関室に浸水したものと考えられる。</p>